



新 総 号
平成19年 5月 7日

国土交通省道路局長 様

新冠町長 小 竹 國 昭



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号により依頼のありましたこのことについて、
別紙のとおり意見を提出いたします。

(総務企画課企画係)

中期的な計画の作成にあたっての意見

町名：北海道新冠郡新冠町

1. 重点化を進める上で、特に優先度の高い道路施策について

○高規格幹線道路日高自動車道の整備

過疎化、少子高齢化が進展している当町にとって、町が自立し地域住民が安全で安心した暮らしを送ることができる環境の確保が非常に重要であり、以下のとおり高規格幹線道路日高自動車道の完成、供用開始は様々な問題・課題を解消するものであり、早期の完成が強く望まれるものです。

- ・ 安心を生む医療面については、医師、看護師の確保が困難な状況に加え、厳しい財政状況の中、住民が望む高度医療の環境を整えることは不可能であるが、当該道路が整備されることにより、苫小牧市や札幌市にある高次医療施設等への移動時間が大きく短縮され、医療ニーズを補完することができます。
- ・ 利便性の高い暮らしの面では、買物やファッション、レジャーなど多様なニーズを満たすことができる都市部へのアクセスが、当該道路が整備されることにより行動圏として確立されます。
- ・ 産業活性化の面では、基幹産業である軽種馬の輸送時間短縮や輸送車の発進・停止の繰り返しによる馬のストレスや事故が当該道路の整備により解消されるほか、補完作目の野菜についても、輸送時間の短縮による鮮度維持と付加価値を高めることにもつながります。
- ・ 防災面では、これまで幾度となく豪雨による土砂崩れが発生し、国道が寸断され交通・物流などが麻痺する事態に陥ったことから、当該道路の整備によって災害等の通行止め時の代替道路が確保されます。

さらには、さまざまな地域資源や環境を活かしたグリーンツーリズム、都市との共生と対流、田舎暮らしの提案や移住促進など当該道路が都市と当町を繋ぐ架け橋となるものと考えております。

○国道235号線（新冠～静内間）防災、交通安全整備事業

当町と隣接する新ひだか町静内までの距離は、中心市街地間でわずか4kmの位置関係にあることに加え、管内における商業など経済の中心は新ひだか町であり、通勤・通学や買物など当町住民の日常生活圏となっております。

観光面においては、管内が連携して「ひだか馬立国宣言」を行い、馬産地としての観光客誘致や各町における観光関連施設の整備充実などにより、交通量が年々増大しております。

このような状況の中、当町から新ひだか町へ徒歩や自転車通勤、買物をする住民が少なくないのですが、一部区間662mが歩道未整備であり、この間は山側が路肩からすぐに土砂崩れ防止の擁壁、反対の海側はJR日高本線があるため非常に危険であることから、交通事故による犠牲者が発生する前に歩道整備を行い、交通安全を確保する必要があります。

また、当町には高校がないことから、多くの生徒は新ひだか町にある静内高校に通っております。

当該区間の歩道が整備された場合の自転車通勤について調査した結果、68人中27人、約4割の生徒が自転車通勤を希望しており、歩道の整備が通学対策としても安全性の確保が図られます。

2. 効率化を徹底的に進める上で重要な事項

- 供用あるいは完成年次を明確にした事業管理、国・北海道との連携・協働の強化及びコスト縮減への一層の努力が必要。
- 各項目や各分野における優先順位を明らかにした中で、選択と集中による重点的な取り組みが必要。
- 地域の状況などに応じて、道路の規格や構造などを柔軟に設定するなど、経費の縮減と迅速な施策展開に向けた取り組みが必要。

3. その他、道路施策や道路の整備・管理全般に関すること

- 地域の発展のため必要となる事業の財源を安定的に確保することが重要。
- 道路整備や管理について、国民のニーズを十分に配慮するために、地域住民等との意見交換などが大切。
- 食糧供給や自然環境の保全など全国の中で北海道が果たしている役割は非常に大きく、それを支えているのが地方の農山漁村、過疎地域である。
これら地理的条件不利地域が持続的に発展することが国益にもつながり、そのためには道路ネットワークの確保が重要であるが、現在の道路整備水準は低いと考える。
- 広大な北海道ゆえ、公共交通機関を確保することが困難であり、道路が果たす役割は他都府県より大きいことを再確認し、道路施策を展開すべき。